

浄土真宗の極意は聞即信の一念

時剎の一念

それ真実の信楽を案ずるに、信楽に一念あり、一念とはこれ信楽開発の時剎の極促を顯し、
広大難思の慶心を彰すなり。

信相の一念

一念というは、信心一心なきがゆえに一念という。

この一念の極致こそ、三仏を生かし、八万の法藏を読み破った唯信独達の大法門、

「これをしらざるをもつて他門とし、これを知れるをもつて真宗のしるしとす」（御文章）

「この一念をもては婆婆のおわり臨終と思え」（執持鈔）と仰せらるる極意。

●信一念の信前信後の水際は 全然意識に乗らないとするか。

●実時は勿論仮時まで判らないと言つたが、信仰の諦得は全然判らないのか。

●超世不共の唯信独達の法門は徹底したか否かは本人には無自覚なのか。

●聞信の一念が意識に乗らないとすれば、無帰命安心か。

●これを知らざるもつて他門とし、これを知れるをもつて真宗のしるしとす、とは一念の諦得ではないか、これも取消してよいか。

●祖師は信楽開発と仰せられたが、無明の闇が晴れた味が全然判らないのか。

●地獄一定が極楽一定と転じた広大難思の慶心はなかつたか。

●無量永劫流転の絆たる自力の機執が浄尽して、永生の樂果を得る他力不思議に生かされた約束が決まつた味が判らないか。

●然るに愚禿釈の鬱 建仁辛酉の暦、雜行を棄てて本願に帰す、の文字は取消してよい
か。

たちどころに他力摂生の旨趣を受得すの文を何時とはなしにと書替えてよいか。

●三世の業障一時に罪消えても、何時とはなしに罪消えてに、書き替えねばならぬがよい
か。

聞其名号信心歡喜乃至一念で心の即得往生をしているのだが、水際が立たなかつたのか。

●一念の信定まらん輩は十人は十人等と教えてあるが、自分には定まつたか定まらないか判
らないのか。